

第3章



計画の全体像と施策の方向性

- 1 計画の全体像
- 2 8つの目標と施策の方向性
- 3 4つの重点プロジェクト

3 計画の全体像と施策の方向性

住宅政策がめざす8つの目標と 各目標にまたがる4つの重点プロジェクト

基本方針を踏まえ、住宅政策がめざす8つの目標を設定します。また、各目標にまたがる横断的視点、4つの重点プロジェクトを位置づけ、計画の全体像とします。

計画の全体像

基本方針がめざす10年後の姿に対して、住宅政策で取り組むべき具体的な目標を8つ定めます。また、住宅政策の「いのちの基盤」となる住まいづくりを着実に実行するため、8つの目標に共通した横断的視点を位置づけます。

8つの目標と 施策の方向性

8つの目標ごとに、関連する現状と課題を踏まえてめざす姿を設定し、達成に向けた施策の方向性を定めます。

- 目標1 子育て世帯が安心して住み続けられる住まいづくり
- 目標2 多様な人々がつながり支える関係の醸成
- 目標3 高齢者など住宅確保に配慮を要する区民の居住の安定
- 目標4 新たなニーズを捉えた自分らしく暮らせる住まいづくり
- 目標5 長く使い続けられる良質な住まいづくり
- 目標6 マンションを核としたまちづくりの推進
- 目標7 空き家・空き室の有効活用推進
- 目標8 地域特性に応じた住まいづくり

4つの重点 プロジェクト

8つの目標を横断し、複数の目標達成に導くことが期待できる4つのプロジェクトを「重点プロジェクト」と位置づけ、重点的に取り組みます。

- プロジェクト1 ライフステージに応じた既存住宅の有効活用
- プロジェクト2 「マンションまちづくりプロジェクト」の推進
- プロジェクト3 「(仮称)住まいの活用プラットフォーム」の活用
- プロジェクト4 住まいに関する取組の周知・普及

1 計画の全体像

1 目標の設定

基本理念・基本方針がめざす10年後の姿に対して、住宅政策で取り組むべき具体的な目標を8つ定めます。また、目標ごとに関連するSDGsのゴールを示します。

目標1 子育て世帯が安心して住み続けられる住まいづくり

- 既存住宅のリノベーション推進
- 子育て世帯向け住宅の供給誘導



目標2 多様な人々がつながり支える関係の醸成

- 公的賃貸住宅でのつながりづくり
- 地域との接点をつくる民間住宅の誘導
- 地域のつながりをつくる活動の支援



目標3 高齢者など住宅確保に配慮を要する区民の居住の安定

- 居住支援の取組の強化
- 住宅確保要配慮者の民間賃貸住宅等への円滑な入居促進
- 区営住宅等の適切な供給



目標4 新たなニーズを捉えた自分らしく暮らせる住まいづくり

- 新たな暮らし方に対応した住まいの情報発信
- 多様なライフスタイルに応じた民間賃貸住宅の誘導
- 地域活動の担い手を育成する地域貢献型の住宅の誘導



目標5 長く使い続けられる良質な住まいづくり

- 災害や気候変動に強い持続可能な住まいづくりの推進
- いつまでも健康に住み続けられる住まいづくりの推進
- 適切な住まいの維持管理促進



目標6 マンションを核としたまちづくりの推進

- 地域と連携したマンションのまちづくり活動の推進
- マンションを核とした地域防災の推進
- 地域の価値を高めるマンションの屋外空間の活用推進



目標7 空き家・空き室の有効活用推進

- 空き家・空き室の市場流通の促進
- 地域貢献につながる空き家・空き室の有効活用の推進



目標8 地域特性に応じた住まいづくり

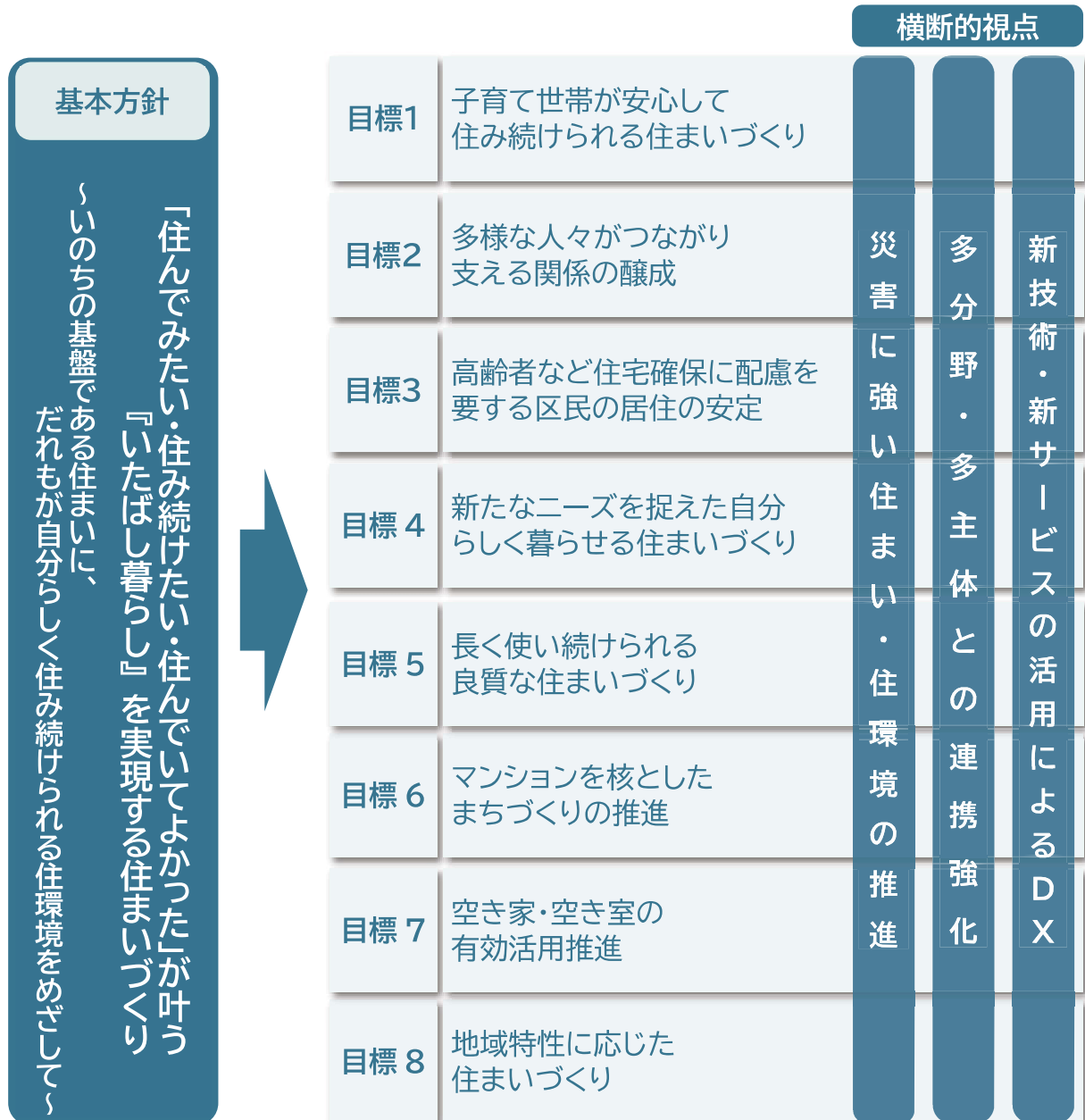
- 地域特性を踏まえた災害に強い住環境の誘導
- 地域の住環境の魅力を高める取組の推進
- 都市再生と連動した良質な住まいづくりの推進



2 目標に基づく横断的視点

区では、住まいはだれもが人間らしく生きるために不可欠な「いのちの基盤」であり、住宅政策ではいのちの基盤を支える住まいづくりの推進を前提としています。

今後も、いのちの基盤となる住まいづくりを着実に実行するため、「災害に強い住まい・住環境の推進」「多分野・多主体との連携強化」「新技術・新サービスの活用によるDX」を、8つの目標に共通した横断的視点と位置づけます。



災害に強い住まい・住環境の推進

○災害への備えは、区民のいのちを守る住まいづくりの基本となります。「どの地域で」「誰が」「どんな住宅に」住んでいても、いのちを守れる住まい・住環境をめざして、8つの目標の施策を考える共通の視点とします。

ハード(建物・構造物)の対策

- 地震や火災で壊れない住宅づくり
- 災害時にスムーズに逃げられる住環境の整備
- 被災後にスムーズに住まいを確保するための準備 など

ソフト(仕組み・体制)の対策

- 災害時の支え合いにつながる平時のコミュニティづくり
- 高齢者などを地域で見守る体制づくり など

多分野・多主体との連携強化

○区民のライフスタイルが多様化する中、住まいや暮らしを取り巻く課題は複雑化しています。住宅政策だけでは解決できず、暮らしに関わる多分野・多主体との連携が不可欠です。

○良好な住環境を維持、向上させる活動が住民主体で盛んに行われていることが板橋区の特徴です。こうした活動と連携した取組によって、板橋らしい住環境の形成が期待されます。

○これを踏まえ、住宅政策の実行にあたり、都市計画、まちづくり、福祉、防災、緑などの分野と柔軟に連携を図ります。また、民間事業者や団体などとも連携し、8つの目標に掲げるソフト・ハードの住まいづくりを、関係者と協力して推進します。

【関連するSDGs】



新技術・新サービスの活用によるDX

○令和2（2020）年に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大によって、オンラインを活用した新サービスなどが急速に拡大し、新たな生活様式が広がりました。

○デジタルの活用は、日々の暮らしが便利になるだけでなく、効率化による担い手不足への対応や、新たな住まいの価値を生み出す可能性があります。

○ポストコロナ時代の新たな動向を踏まえ、8つの目標を達成するために、いのちの基盤を支える新たなデジタル技術・サービス等を積極的に活用します。また、すべての人に情報が行き届くことに配慮し、住宅政策全般にわたるDXを推進します。